

【市長記者会見資料(抜粋) 2013.5.10 発表】

●看護師等養成所について

市長

看護師等の養成所の関係ですが、最近、土地のことも県知事のご発言の中で前向きに考えていくということも表明をされたということでもありますし、県とのこれまでのいろんなお話を踏まえて、鳥取市としても積極的にいろいろ対応を図っていきたいというふうに思っています。

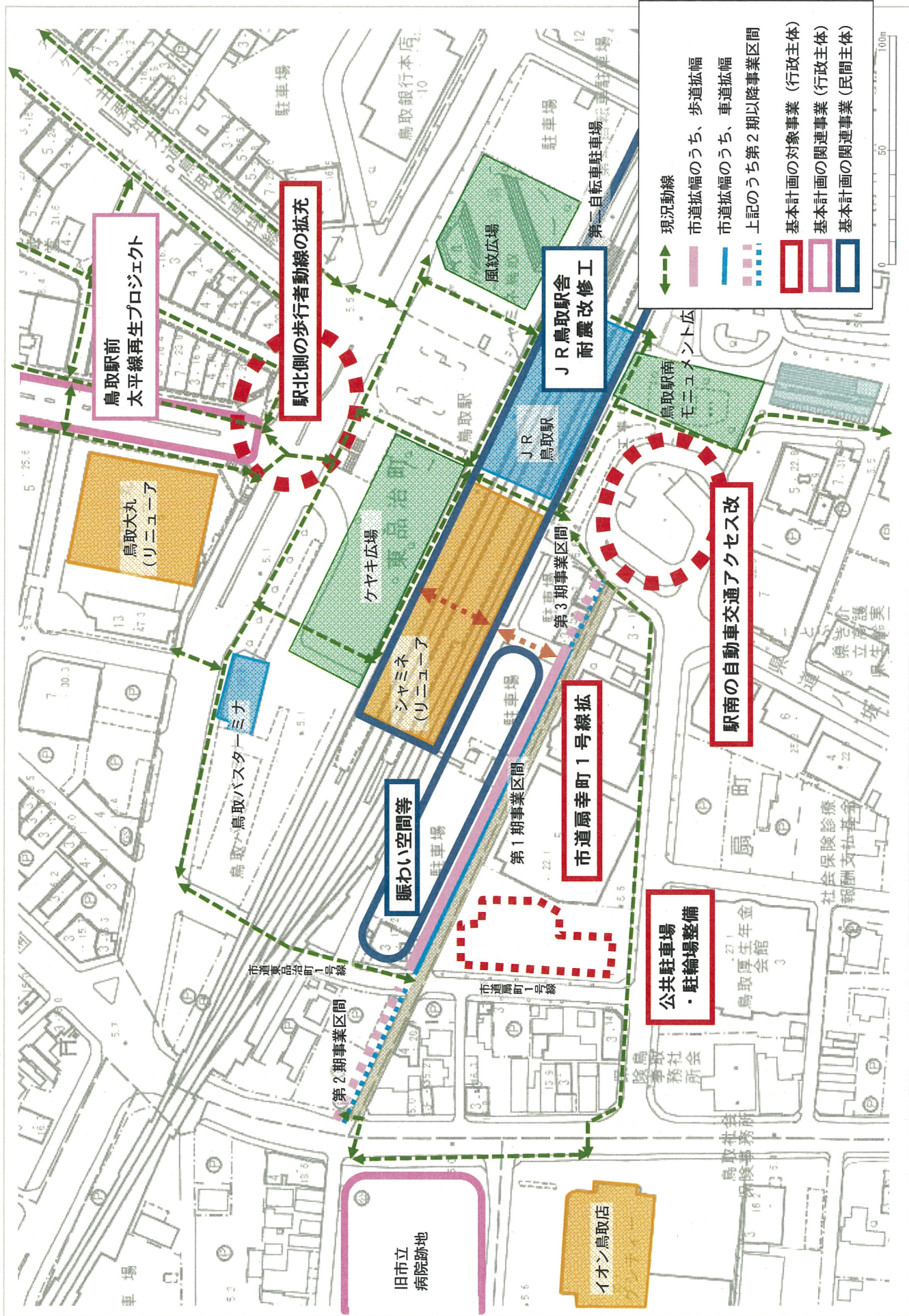
そうした中で、皆さんよくご存知かとは思いますが、ワシントンホテルプラザという建物があって、その道を挟んで隣の駐車場の場所ですけれども、道路の渋滞が鳥取市議会でも指摘をされており、ちょうど駅の高架の下を通過して出てくる方の市道なのですが、この市道の1車線拡幅を計画しています。これによりまして、駅周辺の交通の円滑化が図れます。鳥取市役所で表現すれば駅南庁舎から出た車が駅の北側に回ってくるときに、1車線で直進、右折、左折をやっていますので、ここを片側2車線にすることによって、右折と直進・左折を分けるというようなことが可能になり、駅周辺の交通の円滑化に大きく資するものと考えています。これは市道事業としてしようと考えているわけですが、まさにあの駐車場の場所の土地を少し道路の方に譲ってもらってつくろうと考えていますので、そういう関連した事業があることを申し上げておきたいと思えます。

また、看護師の養成所については、看護学校整備の今後の取り組みを進めるため、準備体制として来週の13日から大阪滋慶学園さんの職員2名が鳥取市内に派遣され、鳥取市内に常駐して、鳥取市と一緒に建設に向けた準備を始めるということの連絡も受けています。

さらに、この学校をつくるに当たって、国庫補助金を申請することになるのですが、県を通じて厚生労働省の方の補助金をいただくということで、これは学校法人の方が申請することになります。この補助金は、医療提供体制施設整備交付金ということで、今月中にも申請を県の方でされるというふうな段取りになってまいりました。昨日、私は上京して、ちょうど石破幹事長ともお目にかかったのですが、こういった状況も説明して、支援をしていただくように、力をかしていただくようお願いをしたところです。この事業の推進に、国、県、市挙げて取り組むという体制が整いつつあることを申し上げて、ご報告させていただきたいと思えます。

この事業は、医療関係の専門職、特に地域で非常に不足が言われている看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、こういった内容の教育を専門的に、全国的に見ても定評のあるこの滋慶学園さんに鳥取市に進出していただいで行おうとするもので、医療、福祉の充実と若者定住に大きな効果があると思っています。それに加えてまちのにぎわいとか活性化、そういったことに大きな効果があると考えています。今後とも県、国と連携しながら、鳥取市としてこの事業の積極的な推進に取り組んでまいりたいというふうに思っています。条件が全体として整って、まとまって前進するようになってきました。あわせて、かねてから我々が感じていた道路整備の面も、これを契機に交通が滞る状態が解消できるというようなことも新たにこの関連で出てまいります。

3 整備の考え方と施設計画



「鳥取駅北駐車場が最適」

看護・医療系専門学校設置計画

候補地を2カ所に絞り込み



鳥取市は27日、大阪滋慶学園(大阪市淀川区)を運営主体とする看護・医療系専門学校の設置について、候補地を2カ所に絞り込んだことを明らかにした。JR鳥取駅北側の民有地の駐車場(候補地1)と同駅南側の民

有地(候補地2)で、学園と市は候補地1がより適地だとする考えも示した。

県健康会館(同市戎町)で開かれた「看護師養成の抜本的拡充に向けての検討会」の第4回会合で報告した。

候補地1(同市東品治町)の敷地面積は約1500平方メートル。候補地2(同市富安2丁目)は約2250平方メートル。

学園側は駅、バスターミナルや銀行、郵便局などが周辺に整っている利便性の良さから

から候補地1を優先したい意向といい、市側も「同じ評価をしており、候補地1を優先的に考えて進めていきたい」とした。委員からは利便性だけが学校の適地要件ではないといった懸念も示された。

市と学園は28日に専門学校設置の基本協定を調印する予定。協定には、2015年4月の開校を目標とし、市が学校用地を取得して学園に無償で貸し付けるとの内容が含まれている。

医療看護専門学校 設置

4学科 200人規模

15年4月開学 鳥取市と学園協定

鳥取市と学校法人大阪滋慶学園（大阪市、浮舟邦彦理事長）は28日、鳥取市医療看護専門学校（仮称）の設置に関する基本協定を締結した。市と学園はJR鳥取駅北側の県有地を第1候補地としており、10月ごろに建設着手し、2015年4月の開学を予定している。3年制（一部2年制）で、1学年の定員は看護学科など4学科で計200人を想定しているなど、具体的な計画も明らかにされた。

協定書を手握する竹内市長（左）と橋本常務＝28日、鳥取市役所



この日、市役所で開かれた協定書調印式では、学園の橋本勝信常務理事が「医療人材の育成と若者の地元定着を目指す市に、何度となく足を運んでいた」と進出に至った経緯を説明。竹内功市長は「県東部の看護師など医療関係の専門スタッフは不足し、ニーズは今後も高まる。学園の進出は鳥取市の希望だ」と喜んだ。

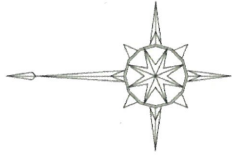
学園は、大学院大と医療・福祉系専門学校計7校を運営。全国57校の専門学校を運営する滋慶学園グループの中核法人。市議会は12年2月、県病院協会東部支部が提出した看護・医療専門学校誘致の陳情を採択。市は同10月から進出法人を公募、同12月に交渉法人を学園に絞り込むと、学園も今年3月に鳥取市進出

の方針を固めていた。学園によると、看護（1学年80人）▽理学療法士（同40人）▽作業療法士（同40人）▽言語聴覚士（同40人）の4学科で、言語聴覚士学科のみ2年制と

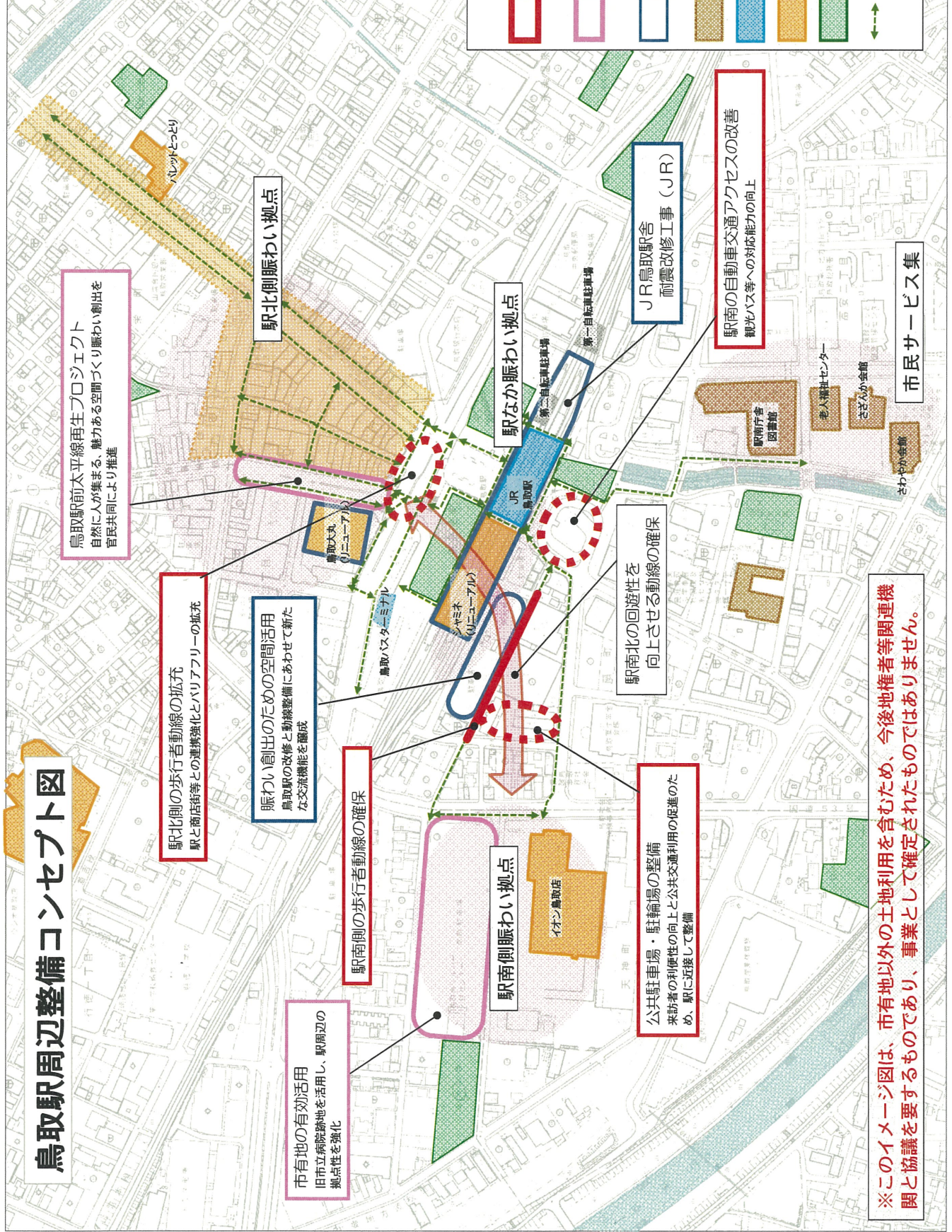
両者は同市東品治町の県有駐車場（敷地面積約1500平方メートル）を学校開設の最適地としており、市が県と交渉して取得後、学園に無償で貸す計画。竹内市長は「市も建設費の一部を支援する」としており、学園は延べ床面積5千平方メートルの建物を計画。職員

員の地元採用もい、採用規模は35〜40人程度の見通し。授業料は看護学科で年間100万円未満とする方向で、橋本常務は「私学の看護系専門学校では西日本で一番安くなる。地元の方に通ってもらい、若者の定着に結び付けたい」と話している。県によると、12年7月に県内の病院に行った調査で、看護師が226人不足していることが分かった。看護師は毎年、約150人ずつ増えているが、300人前後の看護師の需要があり、対応できていない状況という。県福祉保健部の松田佐恵子部長は「医療の高度化への対応や、福祉の場面でも必要な人材。学校の誘致は、現状を打開する大きな取り組み」と評価した。

鳥取駅前周辺整備コンセプト図



凡 例	
 	基本計画の対象事業 (行政主体)
 	基本計画の関連事業 (行政主体)
 	基本計画の関連事業 (民間主体)
 	公共施設
 	交通機関
 	核店舗
 	公園・広場
	既存動線



鳥取駅前太平線再生プロジェクト
自然に人が集まる、魅力ある空間づくり賑わい創出を
官民共同により推進

駅北側の歩行者動線の拡充
駅と商店街等との連携強化とバリアフリーの拡充

賑わい創出のための空間活用
鳥取駅の改修と動線整備にあわせて新たな
交流機能を醸成

駅南側の歩行者動線の確保

市有地の有効活用
旧市立病院跡地を活用し、駅周辺の
拠点性を強化

公共駐車場・駐輪場の整備
来訪者の利便性の向上と公共交通利用の促進のため、
駅に近接して整備

駅南北の回遊性を
向上させる動線の確保

JR鳥取駅舎（JR）
耐震改修工事

駅南の自動車交通アクセスの改善
観光バス等への対応能力の向上

※このイメージ図は、市有地以外の土地利用を含むため、今後地権者等関連機
関と協議を要するものであり、事業として確定されたものではありません。

市民サービス集